

## 校長のひとり言

昨日(9/24)、評価処理に追われている先生方を横目に帰宅の途についた。途中、携帯電話の音に気づき、車を止め、ラジオの音を絞り、電話に出ると、多良間の友人からであった。この音を聞いてよ、と言われるままに耳を澄ますと、「サー、サー」と、いうかけ声であった。一年前、聞いたことのあるかけ声であった。多良間島の「八月踊り」の中で行われる二才踊りで、8名の若衆が白っぽい浴衣に似た着物をまとい、笠を片手に頭にティーサーズを巻き、サー、サーと、かけ声をかけながら、足を高く上げ舞う踊りである。踊り手の少ない離島では中学生も参加するのである。「一樹も頑張っているよ、見に来ない」と。誘いの連絡であった。

今年は明日土曜日(9/26)の仲筋字の「正月(ショウニツ)」に始まり、塩川字の「正月」、両字の「別れ(ワカレ)」の三日間行われる。因みに、中学校の職員は塩川の狂言座というところに所属し(小学校職員は仲筋に)、浜千鳥に始まり、コミカルな寸劇など行い、組踊りの合間の一時、観客を楽しませる。その座にも当然のごとく、小中学生もいる。河内音頭や多良間音頭などを披露する。その練習は夕方7時に始まり、9時頃終える。中学生にとって、部活動を終えての参加となる。また、この時期は幼小中合同運動会が行われるため、小中学生とも日中の練習を終えての参加となる。しかし、彼らは愚痴一つ言わない。練習も半端じゃない。長老や青年の指導のもと、人に見せる訳だから、いい加減なものであってはならないのである。だから、彼ら子供たちには「誇り」と「自信」が自然と芽生える。八月踊りが終わった後、必ず彼らはまた来年も参加したいという。今回は私自身応援に駆けつけることはできないが、しっかりと元教え子に頑張ってもらいたいものである。

翻って、我が美東中校区にも伝統文化がある、と聞いている。是非、美東っ子にもそれを通して、さらなる自信と誇りもつけたいものである。

H21.9.25

多良間公式ウェブサイト→<http://www.vill.tarama.okinawa.jp/>